交野古文化同好会

歴史健康ウォーク・淀屋シリーズⅡ

「八幡史跡めぐり」

日時　　平成２５年１１月９日（土）１０時から１５時ごろ

行程　　一の鳥居→航海記念塔→神応寺→杉山谷不動尊（ひきめの滝）→頓宮
　　→高良神社→安居橋→淀屋旧邸→相槌神社→泰勝寺→善法律寺→
　　→正法寺→八角堂→中の山墓地→松花堂庭園→昭乗広場解散

ご案内　　やわた観光ガイド協会　　中村正孝様・丹波紀美子様

拝観場所　神應寺

＊　諸堂・境内は清浄な法域です。貴重な文化財が多数あります。拝観にあったては十分ご注意いただきますようにお願いします。

＊　街道筋は車の往来が激しいので通行には十分注意して下さい。

１．石清水八幡宮一の鳥居

鳥居は、石清水八幡宮の「山麓の顔」、神域と俗界の結界です。
室町将軍、足利義満は参詣の際、この一の鳥居前で牛車を降り本殿へ向かいました。
木造りによる鳥居の建立は度々おこなわれましたが、寛永１３年（１６１９）に「寛永の三筆」のひとり「松花堂昭乗」の発案によって「石造り」に改められました。
鳥居の神額は古くは平安時代、一条天皇の勅によるもので書道の名人、藤原行成の筆でしたが、石造りに改められたときに松花堂昭乗が行成の筆跡をそのまま書き写しました。
惣銅版張りに金字で現されています。｛八幡宮｝の八の字は鳩の姿をかたどっています。

2. 神應寺

今から１１５０年前の貞観二年（８６０年）八幡宮を勧請した行教律師が、応神天皇の霊を奉安して建立した寺で応神寺と言っていたが、後に天皇の号をはばかって「神応寺」と改めた。
はじめは法相宗・真言宗・天台宗等を学ぶ四衆兼学の道場であったが、室町時代に曹洞宗に改宗、以降は曹洞宗に属している。
文禄年間（１５９２～１５９６）、征韓ノ役にあたって秀吉は、石清水八幡宮に詣で軍の先鋒に八幡宮の神官を望んだが、神社側は恐れて命に服さなかった。秀吉は機嫌を損じたが、この時神応寺の住職の機転により、征韓のかどでにはまず応神天皇の御寺に参詣すべきことを進言したので秀吉は機嫌を直したと伝えられています。｛当時の１２世弓箴善彊（キュウシンゼンキョウ）住職は尾張中村の出身で秀吉とは同郷のよしみがあった｝
そのかいもあって、秀吉から１２０石の朱印状を賜る。（禅宗５カ寺で５００石）
堂内には本尊薬師如来および日光・月光菩薩、秀吉の衣冠束帯の像があり、さらに特異な風貌をあらわした行教律師坐像（重要文化財）が安置されています。この像は元は石清水八幡宮の開山堂にあったものを、廃仏毀釈のおり仏像ではないあかしに烏帽子を被らせこの寺にもたらされたと伝えられています。

〇当寺と淀屋との関係

① 本堂（大雄殿）

本堂玄関扁額「神応禅寺」元禄６年揮毫、淀屋４代目重当の寄進。
本堂正面の扁額「大雄殿」淀屋４代目重当の寄進。

② 墓碑

淀屋家の墓は、中央に２代目个庵、左西側に３代目箇斎、右側に五郎右衛門（个庵の弟で３代目の実父）の供養墓碑。
西側脇には５代目淀屋辰五郎（広当）の墓（１６８４年から１７１７年）
戒名は「潜竜軒咄哉个庵居士」
上記のことからも淀屋の援助が相当あったものと想像される。

３．杉山谷不動尊（厄除け不動尊）

不動尊の謂れは、平安時代にこの谷より出没する悪鬼を鎮めるために行教律師が弘法大師自刻の不動明王を安置したことに始まると伝えられています。
元は石清水八幡宮が管掌していたが、１７５０年の修理に際し神応寺が私費で再建したことから神応寺が管掌することになった。
堂宇は昭和９年室戸台風で崩壊、昭和４８年に再建され現在に至っている。
① 本尊：大聖不動明王（秘仏）
　一刀三礼（いっとうさんらい）による弘法大師自刻と伝えられる。
ご開帳は６０年に１回（直近は平成２２年）
御利益：不動明王は、悪魔及び煩悩を断ち切り幸運と繁栄を招くとされています。

② ひきめの滝
石体の不動明王を滝の下に安置。行者・信者・病人等が神仏等に祈願して滝の霊水を浴びる行場。石清水八幡宮の安居（アンゴ）神事では頭役は祭事に入る前に「精進潔斎」するため、滝で身を清めることから始められる。
又、淀屋个庵（２代）は、このあたりから谷の水を引き放生川に筧を掛け淀屋邸の庭先まで引き込み、常にその水の音を聞き楽しんでいます。（男山考古録より）

４．航海記念塔（五輪大石塔）

国の重要文化財。高さ 6.08m、幅 2.44mは日本最大級で鎌倉後期の建立です。
五輪（地・水・火・風・空）は宇宙を構成する五大を現すという密教思想から来ています。
五輪塔の始まりは平安末期、高野聖の勧進により普及し以後、宗派を越えて広まりました。
建立の謂れ
① 尼崎の豪商が日宋貿易の帰途、嵐に遭遇したとき石清水八幡宮の方角に祈り「南無八幡大菩薩」と称えると波も静まり無事帰国できたそうです。それを感謝して建立されたもの。以降、航海者の安全を祈願するところとなりました。
② 石清水八幡宮の八幡神を宇佐から勧請した大安寺の僧、行教律師の墓。
③ 蒙古襲来の際、西大寺の僧、叡尊が八幡宮で祈祷を行いました。神風（台風）が吹いて元軍は敗れ去りましたが、亡くなった彼らの供養の為に叡尊が建立。

５．高良神社

高良神社は高良玉垂命（こうらたまたれのみこと）を祭る石清水八幡宮の摂社です。
行教律師が貞観２年（８６０）6 月 15 日に社殿を建立したと伝えられ、吉田兼好の「徒然

草」52 段にもその名がみえます。往時は頓宮、極楽寺とともに荘厳を極めていましたが、明治初年の戊辰戦争で焼失しました。現社殿は明治 17 年（１８８４）にいったん頓宮殿裏手に再建されましたが同 39 年（１９０６）に現在地に移されました。
一間社入母屋造りの檜皮葺です。
＊　ご神木のタブノキは樹齢７００年で、延命長寿の木として古来、尊ばれています。

５．相槌神社

平安時代、源満仲公が筑紫国三笠郡土山の刀工を呼び寄せ「武将にも朝廷にも代々受け継がれる立派な刀を二振り打って欲しいと要望」しかし、なかなか満仲の願いにかなうような刀が打てませんでした。そこで刀工は石清水八幡宮に籠り一身に祈ったところ「汝の申すことよく分かった。良い鉄を使って打つがよい。最上の剣を二つ与える。」との託宣を頂いた。
その刀工は、良質の鉄を持ってきて山の井の水を使って昼夜を問わず懸命に刀を打っているとどこからともなく相槌を打ってくれる音がして、ふと吾に返ると神様が一緒に刀を打ってくれていました。刀工は霊験の厳かさに神様をこの場所に祀り相槌神社としました。
源満仲公もたいそう喜び罪人を使って試したところ、罪人の髭まで切れたことから髭切、もう一本は罪人の膝まで切れたところから膝丸と命名されました。

７．泰勝寺

大正７年円福寺の住職で妙心寺の管長もされた神月徹宗老師が発願され、「松花堂保存会」を結成、当寺を建立されました。
また、熊本の細川候菩提寺、泰勝寺の寺号を移転して滝本坊を改め泰勝寺としました。
現在、臨済宗妙心寺派。
本寺は松花堂昭乗を祀る寺としられていますが、その昭乗は石清水八幡宮の社僧で、滝本坊の住職で、のちに「寛永の三筆」と呼ばれた能書家で、書・画・歌・茶の湯など、巾広い分野に優れた才能を発揮し、素晴らしい業績を残された人物です。
実乗、昭乗、乗円をまつる墓碑（乗円は、淀屋３代目箇斎の叔父さん）
茶席：「閑雲軒」小堀遠州好みを再現

8. 善法律寺（通称：紅葉寺）

当寺は奈良唐招提寺の律宗寺院であります。鎌倉時代正嘉年間（１２５７年から１２５９年）に石清水八幡宮の２７代検校善法寺宮清が自邸を僧坊として喜捨し、奈良東大寺より実相上人を招いて開山した。
1334 年（建武元年）、後醍醐後天皇が鎌倉幕府を倒した諸将を引き連れ、石清水八幡宮に行幸、この善法律寺で紅葉を愛でながら酒宴を催したと伝えられています。

また、善法寺家は足利氏とゆかりがあり、特に宮清の孫である通清の娘・良子が、二代将

軍足利義詮に嫁いで、３代将軍足利義満を生んだ。そのため、義満・義教・義政等歴代将軍が何度も参詣している。
母良子は、善法寺の菩提寺である当寺へ多くの紅葉を寄進し今も数十本の紅葉が茂っています。春は萌える新緑、秋は深紅の紅葉が美しく、当寺は「紅葉寺」と称されるようになった。
又、良子の妹紀仲子は後光巌天皇の皇后になられており当時隆盛が伺われます。

本堂は五間四方の建物で、本瓦葺入母屋造り、石清水八幡宮の旧社殿（鎌倉中期頃）の用材を用いたと伝えられています。寛永十六年（１６３９年）頃の移築とみられ、神仏習合の数少ない貴重な建造物である。奥殿は阿弥陀堂となっています。
本堂の本尊は八幡大菩薩像（平安時代作）もとは石清水八幡宮の本殿にあったが、明治の神仏分離の際、この寺に祀られた。左手に宝珠を捧げ、右手に錫杖をもち、本来は地蔵菩薩像であったと思われます。（市指定文化財）
慰霊塔は、昭和９年９月２１日近畿地方を襲い死者不明者３０００名を出した室戸台風で八幡小学校の校舎が倒壊し其の時に亡くなられた校長・教師及び生徒３３人を弔うために建てられたものです。

９．徳迎山　正法寺

鎌倉時代の１１９１年に鎌倉幕府の御家人高田蔵人忠国が天台宗の寺として創建。
室町時代後期に浄土宗に改宗、後奈良天皇の帰依を受け勅願寺となりました。
江戸時代に志水宗清の娘お亀（相応院）が徳川家康の側室となり、後の尾張藩祖・義直の母となります。その後本寺は相応院の菩提寺となり近世を通して尾張藩の厚い庇護を受けてきました。
①　本堂・大方丈・唐門　　重要文化財
寛永７年（１６３０年）相応院の寄付により建立
②　阿弥陀如来坐像（法雲殿内）　重要文化財
元八角堂のご本尊で中品中生の説法印を結ぶ丈六の阿弥陀如来です。
鎌倉時代の製作。製作者は未確定ですが京都国立博物館研究員の見解では「快慶」ではないかと言われていますが未確定。ヒノキの寄木造、彫眼、像高２８３ｃｍ。
③　その他重要文化財（京都国立博物館に寄託）　元三大師坐像
元三大師とは比叡山中興の祖と知られる慈恵大師良源のことで正月３日に亡くなったことから元三大師と呼ばれています。

１０．八角堂

御堂は市内最大の前方後円墳である西車塚古墳の円頂部に建っている。
元は石清水八幡宮の西谷にありましたが、明治の神仏分離の際に現在地に移されました

堂舎は順徳天皇の願いにより八幡宮検校善法寺祐清が建保年間に建立（１２１２年乃至１２１３年頃、開眼供養導師は解脱房貞慶）したもので後に大破。慶長１２年（１６０７）豊臣秀頼の御願によって、尾張国小出吉政が再建した。

現在、正法寺の法雲殿にある丈六の阿弥陀如来は元はこちらに鎮座されていました。

敷地は、平成２４年１月に国の史跡に指定されています。

１１．中ノ山墓地

万称寺（１６５４年開創、正法寺の末寺で常念仏回向で近在から多数の信者が集まっていた。）の西側に開かれた墓地で、１９世紀前半に現在の景観が形成された市内最大の共同墓地である。

墓地は、龕前堂（ガンゼンドウ、阿弥陀仏を祀る）を中心に北に十三仏・南に２５菩薩の石仏を配し来迎の場面を立体的に表現されている。

① 正平塚

当初、大正末期に西村芳次郎により塚が整備され、昭和１９年に今中伊兵衛が現在のように再整備した。八幡宮を拠点としていた南朝方は北朝の圧倒的な大軍を前に窮地に陥っていたが、四条隆資は後村上天皇の退却を助ける為、自ら少数の兵を率い天皇が吉野へ落ちのびるのを助けた忠臣で当時の世相を反映した塚となっています。

② 吾妻与五郎墓

「男山考古録」では上臈墓は「俚俗吾妻墳ともいう」とあります。文楽や歌舞伎で演じられる「引窓」の主人公傾城吾妻のことをさすとおもわれます。

「八幡史蹟名勝誌」には「淀屋辰五郎の変名なり、近世まで夫婦二基ありし」とある。

宝永２年豪奢な生活を咎められ闕所処分を受けた淀屋辰五郎が遊里で執心した傾城吾妻を身請けし、共に隠棲した。それが引き窓の主人公吾妻と与五郎であるという西村芳次郎の考えによって墓碑が立てられている。（竹中友里代：中ノ山墓地の景観と庶民信仰より）

１２．松花堂庭園

明治中頃から昭和の中頃にかけて井上忠継、西村芳次郎親子が旧泉坊書院及び草庵茶室「松花堂」を中心に保存整備をおこなってきたが、昭和５２年八幡市が市制施行を記念し購入しその年の１１月市制施行と同時に公開。

① 淀屋ゆかりの「砧の手水鉢」

淀屋家の別邸にあった手水鉢で、不動谷から筧を使って水を流し、この手水鉢の横より水を通して噴水を楽しんだとのことですが、この水の流れる音がどんどんと響き、また手水鉢に入れた玉石が噴き上がる水で動いてコトコト音がし、洗濯物を打つ砧の音に似ていることから砧の手水鉢と呼ばれました。